

発達 の 段階 に応じた授業づくりの 視点 ねらいの焦点化

Before



学校の年間指導計画には、一時間ごとに道徳科のねらいが示されているけど、指導する学級に合わせて授業のねらいをはっきりさせたいな。

「内容項目の理解」「実態把握」「教材の活用」でイメージした目指す児童生徒の姿を基に明確な指導観を持ち、**授業のねらいをはっきり**させましょう。



例) 小学校6学年 内容項目「正直, 誠実」(教材「手品師」)のねらいの焦点化

内容項目の理解

本時で指導する内容項目の「正直, 誠実」は, 中学校で「自主, 自律, 自由と責任」と統合される。



自律的に物事を判断できる時期と内容項目が統合されることを踏まえ、**自分なりの誠実さを考えさせたい。**

実態把握

自律的な態度が発達し, 自分で行為の判断ができるようになる段階である。自他を客観的に見るあまり, 友達からどう思われるかを気にして, 正しいと思っても行動できない児童がいる。

自分にうそをつかず, 明るく生きることのよさに気付かせたい。

教材の活用

行為の結果とともに動機を十分に考えることができる発達の段階を踏まえ, 手品師が自分の心に向き合って行為を決めた場面に焦点を当てる。

手品師が自分の心に向き合って行為を決めた場面を取り上げ, 児童が誠実さを考えるきっかけにしたい。

指導観

指導観を明確にしたことで, 授業のねらいを次のようにしました。

手品師が自分の心に向き合って行為を決めた場面について考えることをきっかけとして, 自分なりの誠実さを考え, 自分にうそをつかず明るく生きようとする道徳的判断力を育てる。

After

「内容項目の理解」「実態把握」「教材の活用」で目指す児童生徒の姿をイメージしたことが指導観を明確にすることにつながり, 授業のねらいを焦点化することができました。

